

# オリジン

オリジン…稲の学術名「オリザ・サティヴァ」に、人を意味する「ジン」を合わせました。

随時更新！



HP : <http://www.ja-mg.or.jp>



Facebook : <https://www.facebook.com/ja.miyagi.chuokai/>

発行:宮城県農業協同組合中央会  
〒980-0011  
仙台市青葉区上杉1-2-16  
Tel.022-264-8245  
制作:日本農業新聞



給食をおいしく食べる登米市立西郷小学校の児童たち

## 令和2年11月から28市町村で導入

JAグループ宮城や宮城など構成する「宮城県米飯学校給食普及拡大推進委員会」は、令和2年11月の新米切り替えより、県内28市町村(先行実施の3市町村含む)の小中学校の給食に「環境保全米ひとめぼれ一等」の提供を開始しました。

県域の仕組みとしての環境保全米導入は全国初。農薬や化学肥料の使用量を慣行栽培の半分以下に抑えた、より安全で安心な環境保全米の提供によって、子供たちの健康やかな成長をサポートします。

同時に、「食」を支える農業・地域・自然との関わりと、その価値を伝える「食農教育」のさらなる推進も目指しています。子供たちに、人にも環境にも優しい環境保全米の素晴らしさに気づいてもらえることを願っています。



宮城における環境保全米の歴史は平成15年、JAみやぎ登米において「赤とんぼが乱舞する産地を目指そう!」を合言葉にスタートしました。平成19年にはJAグループ宮城が環境保全米作り全県運動を開始。その趣旨に賛同した宮城県、生協、河北新報、東北放送、東北電力などにより、「みやぎの環境保全米県民会議」

が発足し、現在では、楽天野球団やベガルタ仙台なども参加しています。運動は宮城県全体に広がり、各地で環境保全米が作られるようになりました。一方で、環境保全米の栽培面積は、平成24年の2万6855haから減少傾向にあり、令和元年には1万8959haにとどまっています。

## 「みやぎの環境保全米」とは？

みやぎの豊かな環境を守るため、農薬や化学肥料の使用量を慣行栽培の半分以下に抑え、自然と人の力を合わせて作り上げるお米です。

### 【環境保全米が果たす役割】

水や土、生き物を守る	農薬や化学肥料の使用量を減らすことで、環境負荷を軽減させ、豊かな生態系維持に貢献します。
「SDGs」の達成に貢献	環境保全米の取り組みは、SDGsで定める「持続可能な社会」の実現に貢献するものです。
子供の健やかな成長をサポート	より安全・安心にこだわり作られた環境保全米が、子供たちの健やかな成長を応援します。

栽培方法	農薬	化学肥料
環境保全米(特別栽培)	8成分以下	3.5Kg/10a以下
慣行栽培	17成分	7Kg/10a



県内多くの小中学校へ配布された環境保全米給食の開始を知らせるチラシ

子供たちに、より安全・安心なお米を

県域では全国初

# 学校給食に環境保全米

県域では全国初 子供たちに、より安全・安心なお米を 学校給食に環境保全米	(1面)
米の大幅な需給緩和 生産者・JAグループ・行政等一体で需給均衡を実現	(2、3面)
「地域の宝物みつけたよ!」 お米から自然環境の大切さを学ぶ	(4面)



みんなのよい食プロジェクトとは、これからの日本人にとって「よい食」とは何かを、日本の農家とJAグループ、消費者、協力会社・団体のみんなと一緒に考え、行動していく運動です。